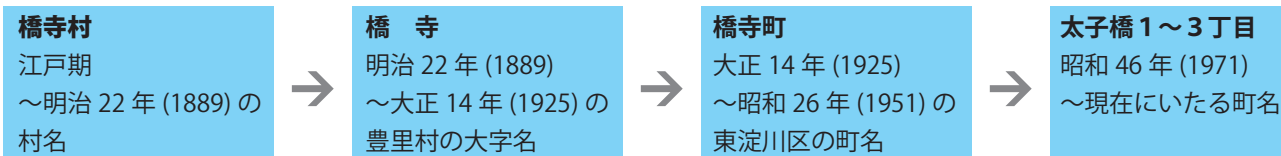


地名でみる太子橋 1～3丁目

太子橋はその名の通り聖徳太子とゆかり深い土地である

北は淀川に面し、東は守口市に接する住宅地域。1丁目には府営今市住宅、市営城北住宅、3丁目には府営橋寺住宅、淀川パークハウスがある。1丁目の南端を国道1号、中央を阪神高速大阪守口線が東西に通る。1, 2丁目の境を主要地方道大阪内環状線が縦貫し、淀川に架かる豊里大橋が旭区と右岸の東淀川区を結ぶ。

さてここに「橋寺」という地名が残されている。「橋寺」はもと淀川の北岸にあったが、淀川の大改修工事により南岸に移り、集落の地形は大きく変わった。地名は、かつて橋本寺という古刹があったことによるという（「大阪府全誌第3巻」より）。その歴史は古い。



「橋寺村」をさかのぼれば「橋寺荘」として鎌倉期にみえる。建保7年(1219)3月26日付の僧宗賢畠地売券に『謹辞 売買永作手畠新立券文事、合巻反者<但在余畠橋寺御庄内字野垣内地>』とあるのが初見（日本地名大辞典）。まことに古い地名である。

府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから橋寺廃寺と呼ばれている。橋寺廃寺は、奈良時代に行基(668～749)により建てられている。高瀬橋院もしくは橋本寺の跡ともいわれている。

((財)大阪市文化財協会)

太子講

太子橋地区における太子講の行方は？

地域史作成を進めていくうちに、太子講の資料が少ないことに気がついたので、何とか情報を得たいと思い、地域の古いことを良く知っておられる方をお願いしていました。

それは丁度お釈迦様の日、4月8日のことでした。桜の花びらが風に舞っている太子橋中公園の東北あたりの通り道で、犬と散歩中の田嶋さんの息子さんに運良く、偶然お会いすることができました。お願いしていた方も一緒だったので、すっかり話し込んでしまいました。

ほんの近くに住んでいたにも拘わらず、私は初めて

お目にかかったのですが、幸いに先方は私の母をご存知だったので、周囲の移り変わりや思い出話に花が咲いたのでした。

お話によると田嶋家では、この歴史に残る太子講を終了するにあたり、決して粗末にはできないと、その殆どを大阪市の歴史博物館に寄贈されたそうです。何でも昭和25年頃には太子講に80人ほどの人がみえていたのを覚えているとのことでした。一緒に話していた方は、昔一度太子講に参加した記憶があるといっておられました。

太子講の由来

飛鳥時代、聖徳太子が寺院建立のため、太子橋のあたりに視察に来られ、近くの大庄屋田嶋家で休息された。その時、お茶によもぎ団子を添えてお出ししたところ、太子は大変お喜びになり、お礼に自身の自画像を賜ったと伝える。

これが太子講の起りこで、以来、毎年旧の2月22日、田嶋家で太子祭が催され、戦前までは、門前市をなす盛況ぶりだったという。田嶋家では太子祭が開かれ、当日、太子の自画像のご開帳と参拝者には故事ゆかりのよもぎ団子が配られていた。

橋寺廃寺

- 橋寺は、奈良時代の僧侶、行基によって建造された。この歴史は、「行基年譜」から学者が正確であると判断。
- 行基は、道、堤防、ため池、堀、そして近畿地方で49の寺を造り、この橋寺はそのうちの1つ。
- 高瀬橋に近く高瀬橋院という寺があり、地元では「橋本寺」と呼ぶようになり、略して橋寺となった。
- 寺があったという根拠は、布目のある瓦（奈良南都仏教の特徴）が発見されたことによる。その瓦にはスグがあったため、焼失したと見られている。
- 行基は、当時の砂州（島）をつなぐ高麗橋を天平7年(730)に建設。
- 昭和34年(1959)に住吉中学校の生徒が偶然土器を発見。その際に発見されたものは、現在大阪市立歴史博物館に保管されている（一般非公開）。
- 大阪文化財埋蔵地区に指定されている（旭区に3箇所）。
- 土器→南北朝時代／瓦→奈良時代

行基

堺出身の奈良時代の僧侶で、奈良の大仏(753年完成)などをつくった。行基の先生である道昭は初めて火葬された人で、行基もその次に火葬された。



写真■橋寺廃寺跡

府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから、橋寺廃寺と呼ばれている。



写真■橋寺廃寺の説明サイン



写真■フィールドワークで橋寺廃寺跡を見学する「旭区今昔を知る会」